

マタイの福音書 4章

さて、イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた。（4:1）

すぐに、イエスは御霊に導かれ、御霊に従われています。新約聖書には、御霊の命や、御霊における歩みに関して、多くのことが書かれています。

非常に多くの人たちが聖霊によるバプテスマを重視しますが、現実には、重視されるべきなのは御霊による歩みであって、賜物や、現象や、刺激的なものや、しるしなどではありません。

クリスチャンが本当に重視すべきなのは、御霊によって歩むこと、御霊に導かれることです。パウロはローマ人への手紙8章で私たちにこう言っています。「神の御霊に導かれる人は、だれでも神の子どもです。」

私には、あなたが御霊の油注ぎによって、どれほど意気高揚し、どれほど高く飛び上がるのかに関心はありません。私に関心があるのは、あなたが着地した時に、どれほど真っ直ぐに歩むかということです。

私は、飛び跳ねながら、真っ直ぐに歩いていない人たちをあまりにも多く知っています。私にしてみればそれは無効なものです。御霊の賜物の現れにあなたが興奮しても、それはあなたが御霊に従って歩むことほど重要なものではありません。

あなたが御霊にあって歩むこと。それが不可欠で、重要なことです。そしてそれが神が求めておられることなのです。それは、あなたが御霊にあって歩むことです。霊的な現象のために霊の高揚を感じるだけでなく、御霊にあって歩むことです。

私は霊的高揚とか、霊的な現象に反対しているわけではありません。そうではなく、肉にあって曲がった歩みをするに反対しているのです。そして私たちはそこを重視する必要があると思います。

私たちが霊的な現象だけを重視して、御霊にあって歩むことを重視しないなら、あらゆる類の困難に陥ることになります。

イエスは、悪魔の試みを受けるため、御霊に導かれて荒野に上って行かれた〔何のためにかと言うと、試されるためにです〕。そして、四十日四十夜断食したあとで、空腹を覚えられた。（4:1-2）

これは面白いんです。ワイルダースミス博士は、感覚遮断についてお話しされましたが、私はそれをものすごく興味深いものだと思います。私たちの頭は、視覚、聴覚、味覚、感覚といった、身の回りの刺激をすべて解読するのに忙しく働いています。

私たちが持っているこれらの感覚受容器は、臭覚やら何やら、絶え間なく脳に細かなメッセージを送っていて、絶えず感覚データのすべてを解釈していて、脳がそれを処理しています。

それは、「やれやれ、椅子が硬くてお尻が痛くなってきたぞ。あとどのくらい喋るつもりなんだろう」と言っています。「ちょっと位置をずらしてみたらどうか。体重を違った場所に分散させて、もうちょっと楽にしたらい」と。

それと同時に、あなたの目は、小さな写真を毎秒18枚の割合で脳に送信しています。脳は、それらの振動を色や形に解釈しているんです。

それとまた同時に、あなたの耳は音の振動を拾っています。そして耳の中にある小さな骨、砧骨やアブミ骨などが、それらの振動を受信し、脳に振動を送っています。

そして脳が、これらの振動を言葉に解釈しています。同時に、あなたは汗をかいているかもしれないし、口の中でミントを舐めているかもしれません。そのように、これらの感覚上のものがすべて、脳に入ってきているんです。

そして脳は、これらすべての刺激をあなたのために解釈したり、解釈したりしています。結果として、私たちの脳には、情報があふれかえっています。

ワイルダースミス博士が興味深いことをおっしゃいました。彼らは、宇宙飛行士たちを暗い部屋に入れ、水中で無重力状態を体験させ、体温と同じ水温にして熱さや冷たさを解釈しないようにし、色々なものを取り除いて、感覚遮断の状態にします。暗く、静かで、臭いも何もない無菌状態の部屋に置かれて、

感覚遮断の状態、つまり、脳が、体の様々な感覚受容器官から送られてくるすべてのメッセージを処理しなくてよい状態に置かれると、宇宙飛行士たちは、神が第六感を通して語り始めるにつれ、幻を見たり、霊的な体験をし始めたということです。

脳は五感から来るすべての情報で満杯になっているので、私たちは通常、第六感に気づくことはありません。私はこれは極めて興味深いことだと思います。

断食をすると、脳には通常の感覚の一つが欠如します。それは味覚です。そこで、あなたはある期間、脳が、甘いとか、苦いとか、味が無いとか、しょっぱいなどといった、味を解釈しなくてもよい時期を過ごします。

脳は味蕾からの感覚を解釈しなくてよいのです。ですから、脳に空の回路を一つ与えているんです。言うなれば、第六感がメッセージを伝達し始めるように、回線を開くんです。

長期の断食をすると、五日目を過ぎたら空腹感がなくなると言われています。その後、実際に餓死しかけるまで、空腹感を体験しないそうです。

だいたい、35日目から40日目の間に空腹を感じ始めるそうです。そして、再び空腹を感じ始めたら、食事をするのが極めて重要だと言われています。なぜなら、今や餓死しかけていて、いくらか栄養を摂取しなければ、じきに死んでしまうからです。

イエスが40日40夜の間、断食をして、その後空腹を覚えられたというのは、意味のあることです（マタイ4:2）。それは、40日40夜の期間中はイエスは空腹を感じず、その後、空腹を覚えられたことを示しています。

サタンはその空腹感と飢餓状態を利用して、イエスの所に来て言いました。

あなたが神の子なら、 (4:3)

この「なら」というのは、仮定法で使われているのではなく、叙実法で使われており、もっと適切に訳せば、「あなたは神の子なのだから」となります。

イエスが何者なのか、サタンの胸中に疑いは全くありませんでした。悪霊は「私はあなたがどなたか知っています。神の聖者です」と言い、イエスは「黙れ。まだその時ではない」と言われました（ルカ 4:34-35）。

サタンは仮定法で、「もしもあなたが神の子ならば」と言っているわけではありません。

彼は、「あなたは神の子なのだから、その神の力を使って自分の肉体の必要を満たしてはどうか」と言っているのです。

サタンはしばしば、御霊の賜物を受けた人たちをそうやって誘惑しています。神から与えられた権威を、自分自身の肉感的な必要を満たすために用いてはどうかと。自分自身の飢えのため、自分自身の食欲のため、自分自身の願望のために。

これらの石をパンに変えてはどうか。あなたにはそうする権威が備わっている。あなたは神だ。あなたは空腹を空かせている。自分自身の願望を満たすために奇跡を行ってはどうか。

イエスは答えて言われた。「『人はパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる。』と書いてある。」 (4:4)

イエスは、サタンの誘惑に対し、神のみことばで答えました。聖書には、「あなたに罪を犯さないため、私は、あなたのことばを心にたくわえました。」（詩篇 111:19）とあります。

神のみことばは私たちの強みであり、誘惑に対する私たちの力です。あなたが敵の誘惑に対して強くなりたければ、みことばに関心を持たなければなりません。神のみことばを学び、それを心にたくわえなければなりません。

ヨハネはその最初の書簡において、「若い者たちよ。私があなたがたに書き送るのは、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。」（1ヨハネ 2:13）と書きました。

それから彼はこう言いました。「若い者たちよ。私があなたがたに書いて来たのは、あなたがたが強い者であり、神のみことばが、あなたがたのうちにとどまり、そして、あなたがたが悪い者に打ち勝ったからです。」（1ヨハネ2:14）

彼らはそうやって、神のみことばによって、打ち勝ちました。イエスはそのようにして誘惑に打ち勝ちました。神のみことばによってです。私たちが神のみことばを心にたくわえておくことは、非常に大切なことなのです。

すると、悪魔はイエスを聖なる都に連れて行き、神殿の頂に立たせて、 (4:5)

言い伝えによると、それは神殿の丘の頂で、200フィート（約60メートル）ほどの高さであったとされています。

（悪魔は）言った。「あなたが神の子なら、下に身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる。』と書いてありますから。」（4:6）

イエスは「書いてある」と言って、御言葉を以てサタンに答えられました。そこでサタンはどうしたでしょうか。彼は即座にまた誘惑してきます。みことばを歪めて言います。「身を投げてみなさい。『神は御使いたちに命じて、その手にあなたをささえさせ、あなたの足が石に打ち当たることのないようにされる。』と書いてありますから。」

「あなたは怪我をしませんよ。御使いたちがあなたをささえますからね。」イエスは次のように言われましたが、みことばはみことばに照らし合わせるのが非常に重要なんです。

「『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある。」（4:7）

信じる人たちに伴うしるしについて、マルコの福音書には少し面白いことが書かれています。「蛇をもつかみ、たとい毒を飲んでも決して害を受けず、」（マルコ 16:18）とあります。

ケンタッキー州の山に、自分の教会員たちに、シアン化物を飲ませてその信仰を証明させた牧師がいました。そのうちの二人が死亡し、彼は過失致死罪で起訴されました。

彼らは疑いを抱いていました。蛇を扱う人たちもいます。彼らはガラガラヘビを持ち出して、輪になってそれらの蛇を順に回すのです。

私たちは、時折、蛇にかまれて死ぬ人のことを耳にします。彼らはマルコの福音書16章を基にしてそれを行っています。くり返しますが、彼らがみことばをみことばに照らし合わせさえすれば、そんなことにはならないでしょう。

基本的に、サタンはイエスにこうほのめかしています。みことばを証明するために自らを危険にさらしなさい、と。身を投げなさい。証明してごらんなさい。神は御使いを送られるでしょう。

そういうことを言っているんです。でも、イエスは賢明にも、みことばをみことばに照らし合わせられました。彼は言いました。「『あなたの神である主を試みてはならない。』とも書いてある。」

皆さんは、みことばを証明するために、故意に、意図的に、自らを危険にさらすべきではありません。よって、ケンタッキー州のその人たちは、絶対に間違っているんです。

実際、ロングビーチに彼らの一派がいます。ケンタッキー州の山の中だけではありません。彼らはロングビーチでもそれをやっています。しかし、みことばを証明するだけのために、故意に、意図的に自らを危険にさらすのは間違っています。

今度は悪魔は、イエスを非常に高い山に連れて行き、この世のすべての国々とその栄華を見せて、（4:8）

これについては、ルカの福音書を学ぶ時に、もっと深く取り組むことにします。

（悪魔は）言った。「もしひれ伏して私を拝むなら、これを全部あなたに差し上げましょう。」イエスは言われた。「引き下がれ、サタン。『あなたの神である主を拝み、主にだけ仕えよ。』と書いてある。」
（4:9-10）

三つの誘惑に対し、イエスはそれぞれ、神のみことばを以て答えられました。

すると悪魔はイエスを離れて行き、見よ、御使いたちが近づいて来て仕えた。ヨハネが捕えられたと聞いてイエスは、ガリラヤへ立ちのかれた。そしてナザレを去って、カペナウムに来て住まわれた。**（4:11-13）**

カペナウムは、聖地の中でも私の大好きな場所の一つです。イエスのミニストリーの大半がそこカペナウムで行われたからです。それに、ガリラヤ湖の隣にあるその美しい場所がとにかく大好きなんです。そこはいつもとても穏やかで、とても気が休まるんです。

そしてナザレを去って、カペナウムに来て住まわれた。ゼブルンとナフタリとの境にある、湖のほとりの町である。 （4:13）

そこは、二つの部族に割り当てられた地域、ゼブルンとナフタリの地です。ナフタリはカペナウムのちょうど北側であって、そこはゼブルンとナフタリとの境にあるわけです。

「ゼブルンの地とナフタリの地、湖に向かう道、ヨルダンの向こう岸、異邦人のガリラヤ。〔ですから、北方にある都市群のデカポリスです〕暗やみの中にすわっていた民は偉大な光を見、死の地と死の陰にすわっていた人々に、光が上った。」この時から、イエスは宣教を開始して、言われた。「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから。」**（4:15-17）**

バプテスマのヨハネが告げていた同じメッセージが今、イエスによってくり返されています。天の御国は近づいた。メシアはもうすぐ明かされる。御国が成立する可能性はありますが、当然、彼らはメシアを拒絶しました。

イエスがガリラヤ湖のほとりを歩いておられたとき、ふたりの兄弟、ペテロと呼ばれるシモンとその兄弟アンデレをご覧になった。彼らは湖で網を打っていた。漁師だったからである。イエスは彼らに言われた。「わたしについて来なさい。あなたがたを、人間をとる漁師にしてあげよう。」彼らはすぐに網を捨てて従った。**（4:18-20）**

他の福音書から分かるように、彼らがイエスに会ったのはこれが初めてではありませんでした。しかし、この時に、イエスが来て彼らを弟子に召命されたのでした。

そこからなお行かれると、イエスは、別のふたりの兄弟、ゼベダイの子ヤコブとその兄弟ヨハネが、父ゼベダイといっしょに舟の中で網を繕っているのをご覧になり、ふたりをお呼びになった。彼らはすぐに舟も父も残してイエスに従った。**（4:21-22）**

「わたしのために、また福音のために、家、兄弟、姉妹、母、父、子、畑を捨てた者で、その百倍を受けない者はありません。今のこの時代には、家、兄弟、姉妹、母、子、畑を迫害の中で受け、後の世では永遠のいのちを受けます。」（マルコ 10:29-30）

イエスはガリラヤ全土を巡って、会堂で教え、御国の福音を宣べ伝え、民の中のあらゆる病気、あらゆるわずらいを直された。イエスのうわさはシリア全体に広まった。〔北方のゴラン高原を越えてダマスカスまでです。〕それで、人々は、さまざまな病気と痛みを苦しむ病人、悪霊につかれた人、てんかん持ちや、中風の者などをみな、みもとに連れて来た。イエスは彼らをお直しになった。こうしてガリラヤ、デカポリス〔イエスが何処に行かれても、ガリラヤや、ガリラヤ地方北部の十都市、デカポリスからの人々や〕、エルサレム、ユダヤおよびヨルダンの向こう岸から大ぜいの群衆がイエスにつき従った。(4:23-25)

膨大な数の人々が、イエスが行われていた奇跡に惹きつけられていました。

お父様、私たちが罪から贖うべくこの世に遣わされたあなたの御子、イエス・キリストを感謝します。私たちが福音書に書かれているキリストの生涯を学ぶにつけ、私たちが倣うべき模範をあなたが示してください。私たちが気づくことができるよう助けてください。お父様、私たちが肉の束縛から解放し、私たちが肉に向かって行こうとする傾向から解放してください。

私たちが肉的な人生の空しさや失望に気づき、私たちの主がそうであったように、御霊に従って生き、御霊に倣い、御霊に従って歩み、御霊に満たされ、御霊に導かれますように。主よ、私たちがあなたの道に導き入れてください。イエスの御名においてお祈りします。アーメン。